

伏見城跡

—京都市伏見区深草中ノ島町の調査—

2007 年

古代文化調査会

伏見城跡

—京都市伏見区深草中ノ島町の調査—

2007 年

古代文化調査会

例 言

1. 本書は、古代文化調査会が京都市伏見区深草中ノ島町 17 番地において、(株) 敷島住宅による宅地開発に伴い実施した伏見城跡の発掘調査概要報告書である。
2. 発掘調査は、敷島住宅(株)より委託を受けた古代文化調査会の家崎孝治、上村憲章が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市埋蔵文化財調査センターの指導を受けた。
4. 本書の編集は上村がおこなった。
5. 遺物整理は、上垣雅子、須貝淑恵、山口由希子が分担し、遺物の実測は上垣、須貝が担当した。
6. 本書の執筆分担は次の通りである。

I～V 上村

7. 本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系平面直角座標系VIによる。
記載した数値は m 単位で、水準は T.P. である。
8. 本書で使用した地図は、京都市都市計画局発行の 2500 分の 1 の地図(丹波橋)、国土地理院発行の 25,000 分の 1 の地図(京都北部)を調整し、使用した。
9. 土壌及び土器・瓦類の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
10. 遺物番号は実測図・写真ともに共通している。
11. 発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。(所属・敬称略、五十音順)

石田志朗 今井将孝 上嶋 勘 馬瀬智光 梶川敏夫 加藤晃靖 北崎仁志
北田栄造 工藤康弘 小曾昌一 佐分利恒夫 田尻幸利 中村雅一 西沢智幸
長谷川行孝 堀 大輔 宮原健吾
(株)明輝建設 (株)大高建設 (財)京都市埋蔵文化財研究所
(有)京都編集工房 敷島住宅(株) 文化財京都

本文目次

伏見城跡

I	調査に至る経緯	1
II	調査の経過	1
III	遺構	3
IV	遺物	4
V	小結	8

図版目次

図版 1	遺跡 第 1 面遺構実測図
図版 2	遺跡 第 2 面遺構実測図
図版 3	遺跡 断面実測図
図版 4	遺跡 1 調査前全景 (南西から) 2 調査地近景 (北東から)
図版 5	遺跡 1 第 1 面全景 (北東から) 2 第 2 面全景 (北東から)
図版 6	遺跡 1 第 1 面西部 (東から) 2 第 1 面西部 (北西から) 3 第 1 面石列 (北から) 4 第 1 面九曜文軒丸瓦出土状況 (西から) 5 第 1 面土壇 03 (南西から) 6 第 2 面堀状遺構 27 (東から) 7 第 2 面堀状遺構 27 (南から) 8 断面 A-B 断割り (南東から)
図版 7	遺物 土壇 03 出土遺物

挿 図 目 次

図 1	調査地点位置図	1
図 2	調査地位地図	2
図 3	推定屋敷地と調査地概念図	2
図 4	堀状遺構 27 断面実測図	3
図 5	土壙 03 実測図	4
図 6	土壙 03 出土遺物実測図	5
図 7	土壙 03 出土遺物実測図	6
図 8	堀状遺構 27 出土遺物実測図	6
図 9	石列・土壙 03 出土軒瓦写真・実測図	7

表 目 次

表 1	遺物一覧表	10
-----	-------	----

伏見城跡

—京都市伏見区深草中ノ島町の調査—

I 調査に至る経緯

調査地は、京都市伏見区深草中ノ島町17番地他である。当該地は周知の遺跡・伏見城跡にあたる。2006年の秋、当地において敷島住宅株式会社による宅地開発の計画がなされた。工事に先立ち、京都市埋蔵文化財調査センターが2006年9月7・8日の両日に試掘調査を行った。調査の結果、地表下0.15～0.3mにおいて、伏見城時代の遺構が良好な状態で遺存していることが判明し、発掘調査の必要性が考慮されるに至った。京都市の指導のもとに施主との三者協議の結果、当調査会が発掘調査をおこなうこととなった。

II 調査の経過

調査地は、伏見城跡北端部に位置し、伏見から小栗栖へ抜ける街道に面している。調査対象部分は『伏見桃山の文化史』『伏見城と大名屋敷配置図』(加藤次郎作成)によると、「桑山左右エ門」(東

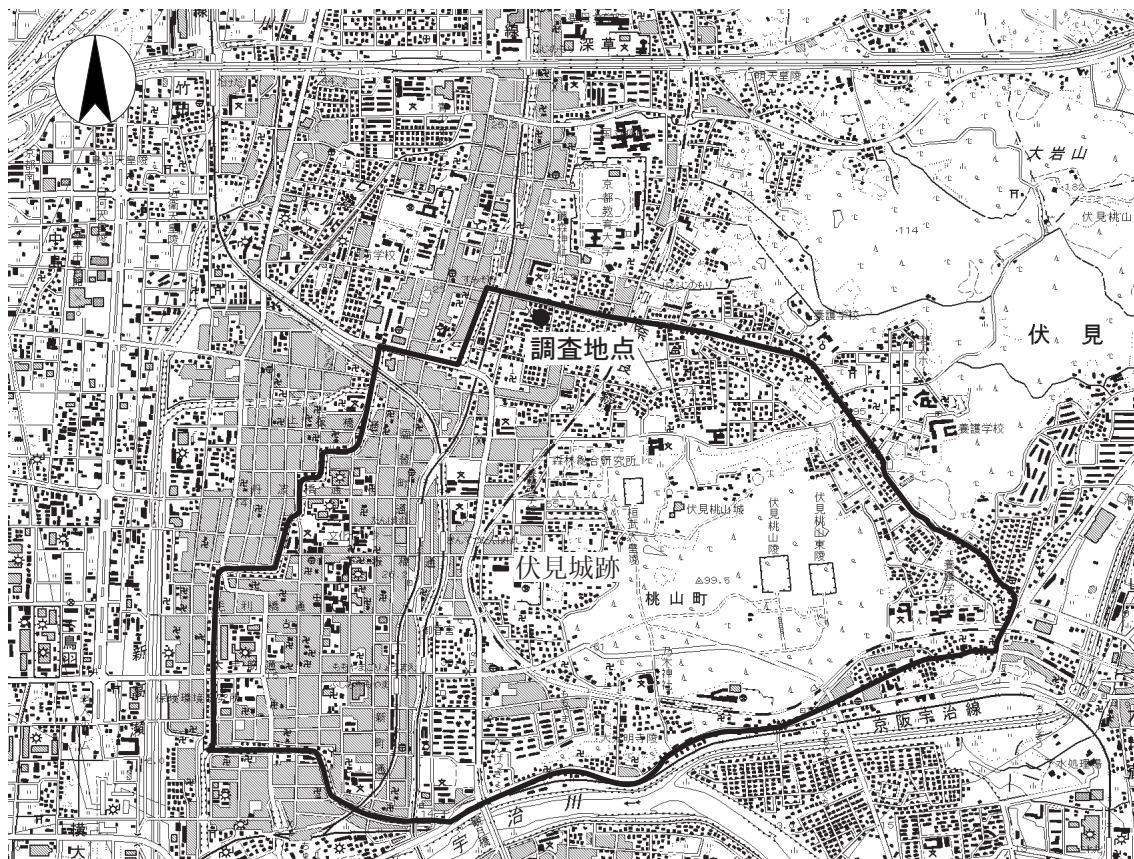


図1 調査地点位置図 (1/50,000)



図2 調査地位置図 (1/5,000)

側)と「佐野半四郎」(西側)の屋敷地の境目付近にあたる。「桑山左右エ門」は桑山重晴(1524～1606)、または同人の三男で江戸時代前期の茶人、桑山宗仙(1560～1632)である可能性が高い。「佐野半四郎」は下野佐野荘に本拠地を置く佐野房綱(?～1601)、あるいはその養子となる佐野信吉(1566～1622)である可能性が高いが確証はない。また調査対象地北側には西に「一柳監物」、東には「京極修理大夫」、南側には西に「原隠岐守」、東に「松平石見守」の名が見えている。それぞれ一柳直盛(1564～1639)、京極高知(1572～1622)、原長頼(1544～1600)、松平康安(1555～1623)と見られる。



図3 推定屋敷地と調査地概念図

期間は2006年10月10日から同年11月11日までの実働23日間、面積は約223㎡を2面にわたり調査した。

III 遺構

基本層序は最上層に厚さ 10cm 前後の表土・耕作土層（第 1、2 層）があり、以下第 12 層、第 23～27 層など江戸時代以降の整地土層などが堆積する。第 29 層以下は自然堆積層と考えている。以下検出した遺構の主要なものについて記す。

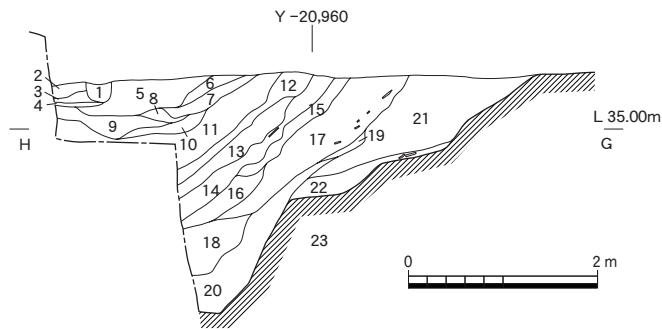
桃山時代以前

土層 29～31、33 等を検出した。7/5YR3/3～3/4 暗褐色系の粘質土が堆積し、いずれも出土遺物は無く、時期を推定することは出来ないが堆積土の状況や、層位関係などから桃山時代以前の遺構である可能性が高いと考えている。

桃山時代～江戸時代初期

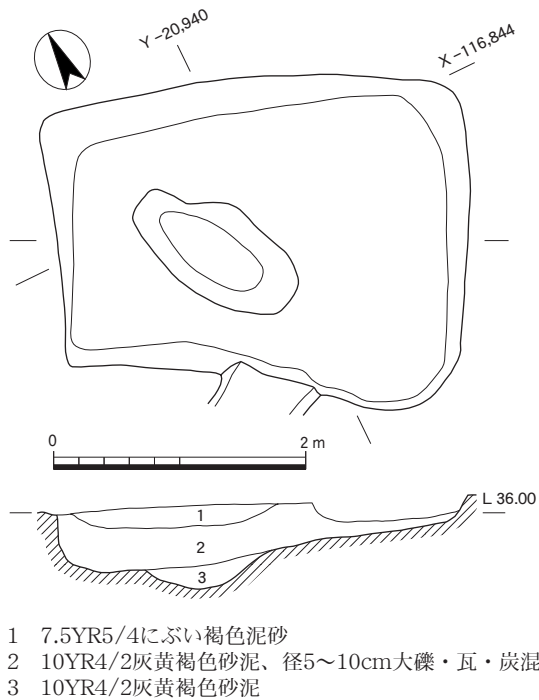
堀状遺構 27（図 4・図版 2・5 の 2・6 の 6・7）

調査区西側で検出した大型の遺構で、埋土からは多量の瓦類が出土している。この遺構の西肩は調査区外にあり、底部は表土から約 3m 程あり非常に大規模であることが推定できる。東肩



- 1 10YR4/4褐色砂泥、径0.5～7.0cm礫少量含む
- 2 10YR6/6明黄褐色礫砂、径0.5～6.5cm礫少量、瓦片含む
- 3 10YR3/3暗褐色砂泥、径0.5～2.5cm礫少量含む
- 4 10YR5/6黄褐色砂泥、径0.5～1.5cm礫微量含む
- 5 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥、径0.5～4.0cm礫多く含む
- 6 7.5YR5/4にぶい褐色砂泥、径0.5～2.0cm礫少量含む
- 7 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5～4.0cm礫多く含む
- 8 7.5YR4/6褐色砂泥、径0.5～1.0cm礫微量含む
- 9 7.5YR4/6褐色砂泥、径0.5～2.0cm礫少量含む
- 10 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5～3.0cm礫少量含む
- 11 7.5YR4/6褐色砂泥、径0.5～4.0cm礫微量含む
- 12 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5～2.5cm礫少量含む
- 13 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5～2.0cm礫微量、瓦片含む
- 14 7.5YR4/3褐色砂泥、径0.5～3.0cm礫少量、瓦片含む
- 15 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5～3.0cm礫少量含む
- 16 7.5YR3/4暗褐色砂泥、径0.5～5.0cm礫少量含む
- 17 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5～4.0cm礫少量、瓦片多く含む
- 18 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5～4.0cm礫、瓦片・炭少量含む
- 19 7.5YR5/6明褐色礫砂、径0.5～6.0cm礫多く含む
- 20 10YR3/3暗褐色砂泥、径1.0～3.0cm礫、炭少量含む
- 21 7.5YR3/4暗褐色砂泥、径0.5～2.0cm礫微量含む
- 22 7.5YR3/4暗褐色砂泥（7.5YR4/3褐色砂泥含む）、径0.5～4.0cm礫、瓦片含む
- 23 10YR5/6黄褐色砂泥、径0.5～12.0cm礫多く含む（地山）

図 4 堀状遺構 27 断面実測図（1/80）



- 1 7.5YR5/4にぶい褐色泥砂
- 2 10YR4/2灰黄褐色砂泥、径5~10cm大礫・瓦・炭混
- 3 10YR4/2灰黄褐色砂泥

図5 土壌3実測図 (1/60)

から深さ約1.2～3mのところ幅約0.5～1.0mの段が付き、さらに西側に1.2mほど下ったところで底部となる。調査した範囲では、東側から埋められた状況を示す斜めに堆積した土層が観察できた。堀状遺構としたが大型の土壙(土取穴、ゴミ処理穴)の可能性もある。

石列(図版1・5の1・6の1から4)

調査区西端部で検出した。堀状遺構27が完全に埋め立てられてその上面で成立している。石の面は西を向いてそろえられており、座標北に対し北側で約10°ほど東に振れている。石列の西側は堅く踏みしめられた面が作り出されている。敷地の境など区画を示す施設であろうと思われる。この付近より「九曜文軒丸瓦」が出土している。

土壙03(図5・図版1・5の1・6の5)

調査区の東部で検出した長方形の平面形状を持つもので長辺約3.1m、短辺約2.4m、深さ0.65mを測る。土壙内からは16世紀末～17世紀初頭の土師器皿・塩壺、備前産播鉢、唐津椀・向付などの陶磁器類、軒丸・軒平瓦などの瓦類が多量に出土した。

土壙02(図版1・5の1・6の1)

調査区中央部で検出した不整形な遺構で、東西幅4.4m、南北幅約2.2m、深さ5～10cmを測る。17世紀前半代の遺物が出土している。

これらの遺構の他、柱穴等も20基あまり検出しているが柱の並びが確認されず、建物として復元できるものはない。

江戸時代

土壙01、04(図版1・5の1・6の1から3)

両遺構とも江戸時代後期のもので土壙01は調査区南西部角で検出した深さ約0.7m、径7.5m以上を測る大型の遺構である。土壙04も不整形で深さ0.5mを測りいずれも性格は不明である。

IV 遺物

出土遺物は全体で整理箱に23箱あったが、堀状遺構27より出土した丸瓦、平瓦が大半を占

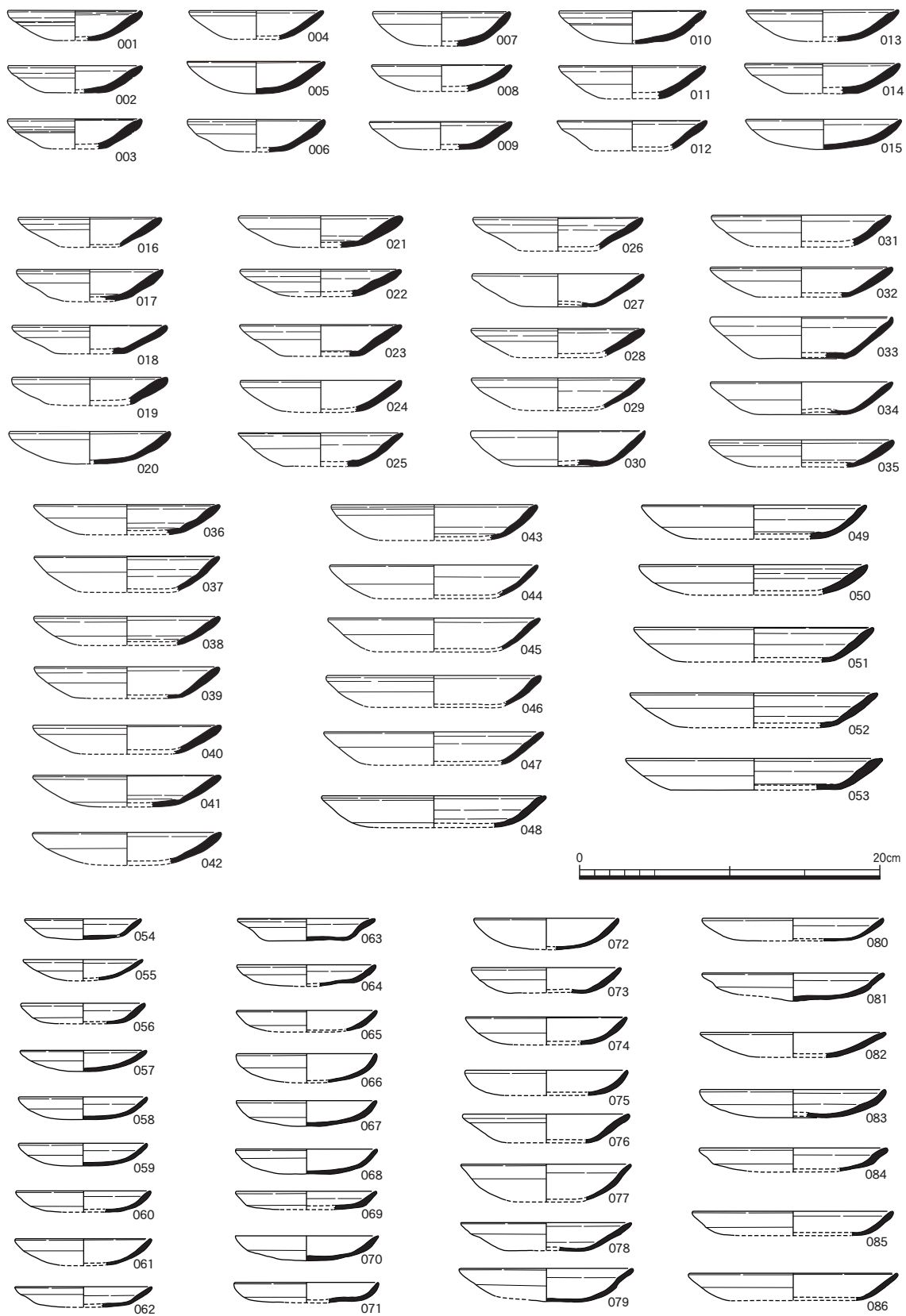


图6 土壤03出土文物实测图(1/4)

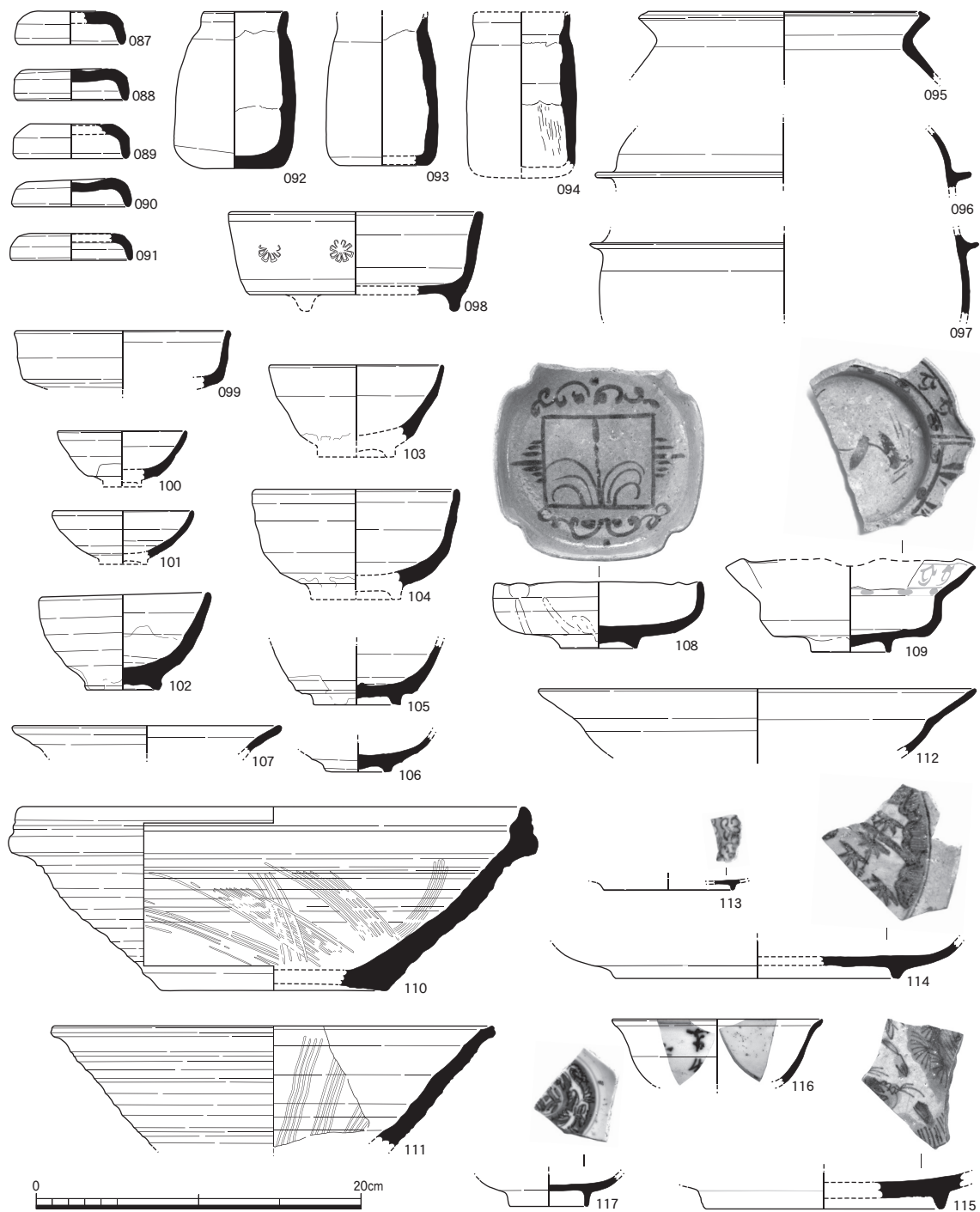


图7 土壙03出土遗物实测图 (1/4)

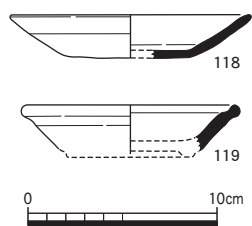


图8 堀状遺構27出土遺物实测图 (1/4)

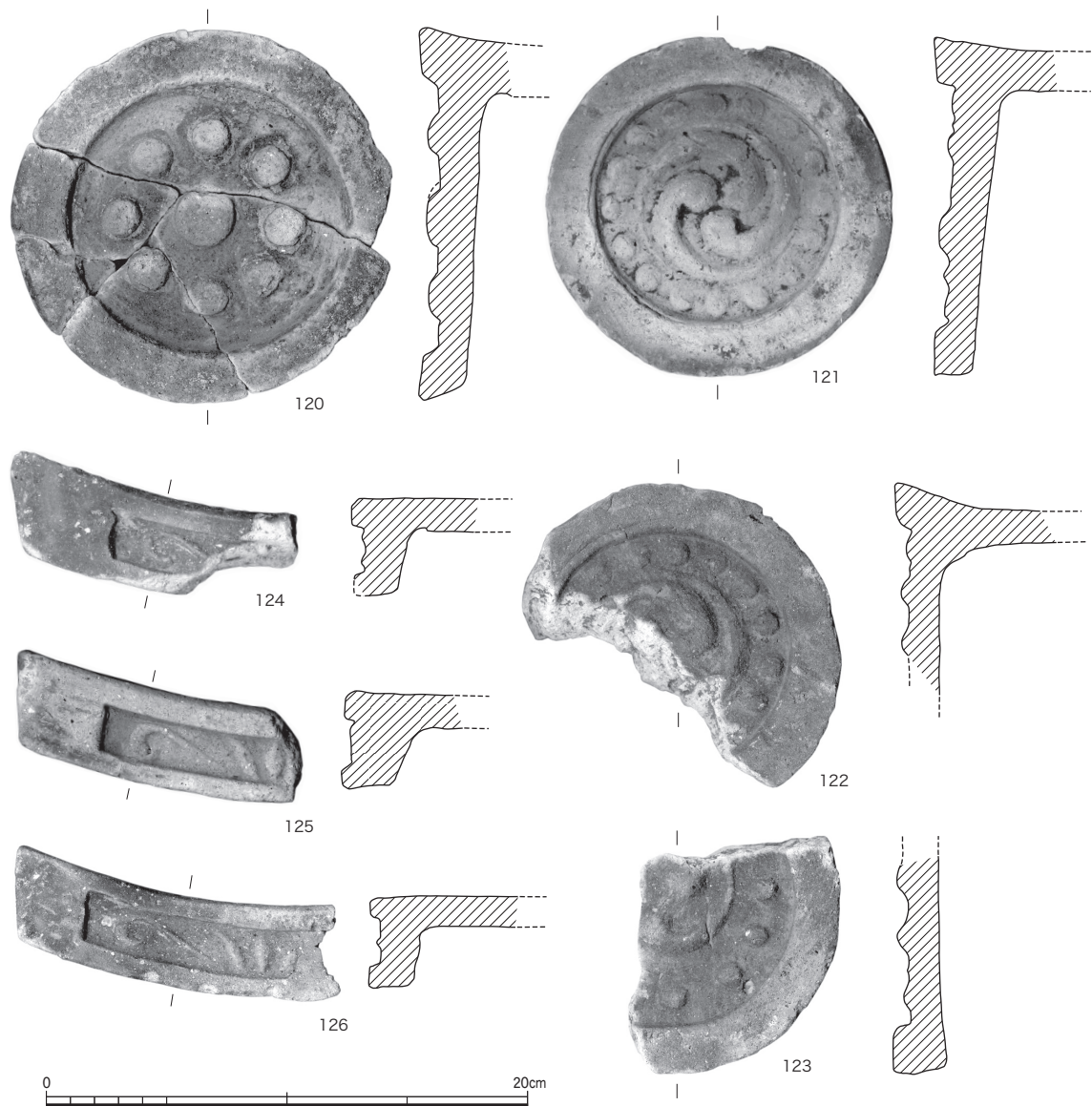


図9 石列・土壙03出土軒瓦写真・実測図(1/3)

める。桃山時代以前にさかのぼる遺物は検出していない。

土器・陶磁器類

土壙 03 出土土器 (図6～7・図版7)

土師器は皿、塩壺、羽釜等が出土している。皿 Sb は 001～015、皿 S は 016～053、皿 X として 054～086 が出土している。口径について見てみると皿 Sb は 9 cm～10 cm 代前半、皿 S は 9 cm 後半代～12 cm 代、13 cm 後半から 15 cm 前半、16～17 cm 代に集まる傾向となった。皿 X は 7 cm 後半代～10 cm 前半代、11～14 cm に集まる傾向となっている。皿 S・Sb は洛中で出土するものと同じものであるが、皿 X としたものは洛中出土のものとは違う特徴があり、伏見近辺で流通消費されたものである可能性が高い。伏見城跡第3面焼土層出土の土師器皿^{註1} 5、6 と同じものと見ている。087～091 は塩壺蓋、092～094 は塩壺、095～097 は羽釜で

ある。098 は瓦器の香炉で外面胴部に菊化文のスタンプを施す。国産の施釉陶器は美濃瀬戸系の向付 099、唐津産の椀 100～106、同皿 107、絵唐津向付 108・109 がある。110 は備前産播鉢、111 は信楽産の播鉢である。112～115 は輸入磁器で染付皿、116・117 は同椀である。これらの一群は 16 世紀末期から 17 世紀初頭、XI 期古^{註2}に収まるものと考えている。

堀状遺構 27 出土土器 (図 8)

出土した遺物の大半は丸、平瓦であったが少量の土師器皿 118 と美濃瀬戸系灰釉折縁皿 119 が出土している。いずれも XI 期の中に収まるものである。

瓦 類 (図 9)

九曜文軒丸瓦 (120)

第 1 面西側で検出した石列付近で出土。瓦当が上を向いた状態で検出されている。胎土は N8/0 灰白色で器表は炭素が付着する。九曜文自体は珍しい文様ではないが、軒丸瓦として確認される例は洛中や伏見周辺では少ない。九曜文を使用する氏族は全国に広く分布するようで、細川氏、戸田氏、千葉氏、伊達氏系の氏族が使用している。彼らの根拠地周辺では九曜文の瓦を載せている施設は多くあるようである。

三巴文軒丸瓦 (121～123)

いずれも土壙 03 より出土する。胎土は N8/0 灰白色で器表は炭素が付着するが、121 は吸着状況が悪い。

唐草文軒平瓦 (124～126)

いずれも土壙 03 より出土する。胎土は 124 が 7.5YR7/4 にぶい橙色、125・126 は 10YR7/3 にぶい橙色でいずれも焼はややあまい。器表には炭素が吸着する。

V 小結

伏見城は文禄元 (1592) 年に豊臣秀吉が築城、文禄五 (1596) 年の大地震 (文禄末年の大地震) によって崩壊し、再築される。慶長三 (1598) 年、秀吉の没後徳川家康が同城に入るが、慶長五 (1600) 年に石田三成らによって攻められほとんど焼亡する。家康は「関ヶ原の戦い」の後、伏見城の再建にとりかかり、慶長十二 (1607) 年に駿府城に移るまで伏見城を居城とした。家康の後、松平定勝が入り伏見藩が成立。元和九 (1623) 年に徳川家光が伏見城にて將軍宣下を受けた後、一国一城令に基づき廃城となり破却される。

伏見城が存在した時期は、豊臣期と徳川期に大きく分けることが出来る。わずか約 30 年間の間に様々な変化がある。堀状遺構 27 に多量に投棄されていた瓦は、三成らによって灰燼に帰した屋敷跡の瓦などを、家康の時代の伏見城再建に伴い整理処分した跡である可能性が高い。

今回の調査では、桃山時代から江戸時代にかけての大型の遺構や石列遺構など、伏見城が存在した時期の遺構や遺物などを確認・調査することが出来た。堀状遺構としたものについては、大

型の堀である可能性と、伏見城下で散見できる土取穴と見られる大型の土壇である可能性が考えられる。^{註3} 周囲の状況から、傾斜面をひな壇状に造成した跡と見る見方もあるが底部があまりにも深くこの可能性は少ないと思われる。今後の周辺の調査が期待される。

註1 『京都市埋蔵文化財調査概要 平成11年度』「23 伏見城跡」（財）京都市埋蔵文化財研究所2002年

註2 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年」『研究紀要第3号』（財）京都市埋蔵文化財研究所1996年

註3 『京都市埋蔵文化財調査概要 昭和60年度』「39 伏見城跡1」（財）京都市埋蔵文化財研究所1988年

表1 遺物一覧表

土壙03 (図6～7・図版7)

No.	種類	器形	タイプ	口径	器高	色調、備考	実測番号
1	土師器	Ⅲ	Sb	9.0	(2.0)	7.5YR7/4 にぶい橙色	001
2	土師器	Ⅲ	Sb	9.0	(1.8)	7.5YR7/4 にぶい橙色	009
3	土師器	Ⅲ	Sb	9.0	(1.8)	7.5YR7/4 にぶい橙色	010
4	土師器	Ⅲ	Sb	9.1	(1.9)	7.5YR7/4 にぶい橙色	002
5	土師器	Ⅲ	Sb	9.2	(2.1)	7.5YR7/4 にぶい橙色	006
6	土師器	Ⅲ	Sb	9.2	(2.2)	7.5YR7/4 にぶい橙色	008
7	土師器	Ⅲ	Sb	9.2	(2.3)	7.5YR7/3 にぶい橙色	018
8	土師器	Ⅲ	Sb	9.4	(1.8)	7.5YR7/4 にぶい橙色	005
9	土師器	Ⅲ	Sb	9.5	(1.9)	7.5YR7/4 にぶい橙色～10YR7/4 にぶい黄橙色	003
10	土師器	Ⅲ	Sb	9.8	(2.2)	7.5YR7/4 にぶい橙色	011
11	土師器	Ⅲ	Sb	9.8	(2.2)	10YR7/3 にぶい黄橙色	014
12	土師器	Ⅲ	Sb	10.0	(2.0)	7.5YR7/3 にぶい橙色～5YR7/4 にぶい橙色	004
13	土師器	Ⅲ	Sb	10.2	(2.1)	7.5YR7/4 にぶい橙色、一部7.5YR6/2 灰褐色	012
14	土師器	Ⅲ	Sb	10.3	(2.0)	7.5YR7/4 にぶい橙色、器表黒ずみあり	013
15	土師器	Ⅲ	Sb	10.4	2.0	7.5YR8/4 浅黄橙色	027
16	土師器	Ⅲ	S	9.6	(1.9)	7.5YR7/4 にぶい橙色	016
17	土師器	Ⅲ	S	9.8	(2.1)	5YR7/4 にぶい橙色	007
18	土師器	Ⅲ	S	10.4	(1.9)	7.5YR7/4 にぶい橙色、灯芯痕あり	017
19	土師器	Ⅲ	S	10.4	(1.8)	7.5YR7/3 にぶい橙色	020
20	土師器	Ⅲ	S	10.8	(2.1)	7.5YR7/4 にぶい橙色、灯芯痕あり	022
21	土師器	Ⅲ	S	10.8	(2.1)	7.5YR7/4 にぶい橙色	024
22	土師器	Ⅲ	S	10.8	(1.8)	2.5Y5/1 黄灰色、灯芯痕あり	025
23	土師器	Ⅲ	S	10.8	(2.1)	7.5YR7/4 にぶい橙色、灯芯痕あり	030
24	土師器	Ⅲ	S	10.8	(2.1)	10YR8/2 灰白色	525
25	土師器	Ⅲ	S	11.0	(2.2)	7.5YR8/4 浅黄橙色～7.5YR7/4 にぶい橙色、内面底部黒化	040
26	土師器	Ⅲ	S	11.4	(2.1)	7.5YR4/1 褐灰色(黒化する)、灯芯痕あり	028
27	土師器	Ⅲ	S	11.5	(2.2)	10YR8/2 灰白色～10YR8/3 浅黄橙、一部7.5YR8/2 灰白色、灯芯痕あり	529
28	土師器	Ⅲ	S	11.6	(1.8)	7.5YR7/4 にぶい橙色	019
29	土師器	Ⅲ	S	11.6	(2.0)	7.5YR7/4 にぶい橙色	026
30	土師器	Ⅲ	S	11.6	(2.4)	10YR8/3 浅黄橙色～7.5YR8/4 浅黄橙色(被熱痕)、灯芯痕あり	526
31	土師器	Ⅲ	S	12.0	(2.0)	7.5YR7/3 にぶい橙色～10YR8/4 浅黄橙、灯芯痕あり	038
32	土師器	Ⅲ	S	12.2	(2.0)	7.5YR7/4 にぶい橙色、器表7.5YR4/1 褐灰色(黒化する)	032
33	土師器	Ⅲ	S	12.2	(2.8)	10YR8/3 浅黄橙色～5YR8/3 淡橙色(被熱痕)、灯芯痕あり	520
34	土師器	Ⅲ	S	12.2	(2.2)	7.5YR8/3 浅黄橙色、灯芯痕あり	537
35	土師器	Ⅲ	S	12.3	(1.8)	7.5YR7/4～7.5YR7/3 にぶい橙色、灯芯痕あり	041
36	土師器	Ⅲ	S	12.4	(2.0)	7.5YR7/4 にぶい橙色、灯芯痕あり	034
37	土師器	Ⅲ	S	12.4	(2.3)	7.5YR7/4 にぶい橙色、内面底部黒化	037
38	土師器	Ⅲ	S	12.4	(1.9)	7.5YR7/4 にぶい橙色	042
39	土師器	Ⅲ	S	12.4	(2.1)	7.5YR7/4 にぶい橙色、灯芯痕あり	043
40	土師器	Ⅲ	S	12.6	(1.9)	7.5YR7/4 にぶい橙色～7.5YR4/1 褐灰色(黒化する)、灯芯痕あり	029
41	土師器	Ⅲ	S	12.6	(2.1)	7.5YR7/4 にぶい橙色、灯芯痕あり	033
42	土師器	Ⅲ	S	12.6	(2.1)	10YR8/3 浅黄橙色、底部付近黒化	538
43	土師器	Ⅲ	S	13.8	(2.4)	7.5YR7/4 にぶい橙色	036
44	土師器	Ⅲ	S	13.9	(2.2)	7.5YR8/3 浅黄橙色～10YR8/2 灰白色、灯芯痕あり	539
45	土師器	Ⅲ	S	14.2	(2.1)	10YR8/2 灰白色～7.5YR8/3 浅黄橙色	535
46	土師器	Ⅲ	S	14.4	(2.0)	7.5YR7/4 にぶい橙色、灯芯痕あり	039
47	土師器	Ⅲ	S	14.6	(2.2)	10YR8/2 灰白色、底部付近黒化	540
48	土師器	Ⅲ	S	15.0	(2.1)	10YR8/3 浅黄橙色～7.5YR7/4 にぶい橙色、底部黒化	035

No.	種類	器形	タイプ	口径	器高	色調、備考	実測番号
49	土師器	皿	S	15.0	(2.2)	7.5YR8/3 浅黄橙色～10YR8/2 灰白色、底部黒化	541
50	土師器	皿	S	15.2	(2.0)	7.5YR8/2 灰白色～10YR8/2 灰白色、底部黒化	542
51	土師器	皿	S	16.0	(2.3)	10YR8/2 灰白色～10YR8/3 浅黄橙、底部黒化	543
52	土師器	皿	S	16.5	(2.3)	10YR8/3 浅黄橙色～7.5YR8/3 淡黄橙色、底部黒化	544
53	土師器	皿	S	17.2	(2.1)	10YR8/3 浅黄橙色、下半部黒化	536
54	土師器	皿	X	7.8	1.4	10YR8/2 灰白色、底部一部黒化	501
55	土師器	皿	X	8.0	(1.4)	2.5Y8/2 灰白色～10YR8/3 浅黄橙色	503
56	土師器	皿	X	8.3	(1.4)	2.5Y8/3 淡黄色	504
57	土師器	皿	X	8.4	1.4	2.5Y8/2 灰白色～7.5YR7/3 にぶい橙色	502
58	土師器	皿	X	8.5	(1.4)	2.5Y7/2 灰黄色	505
59	土師器	皿	X	8.6	1.5	2.5Y8/3 淡黄色	506
60	土師器	皿	X	9.0	(1.4)	10YR8/4 浅黄橙色～7.5YR7/4 にぶい橙色、灯芯痕、被熱痕あり	514
61	土師器	皿	X	9.2	(1.8)	10YR8/3 浅黄橙色、灯芯痕か	508
62	土師器	皿	X	9.2	(1.4)	10YR8/3 浅黄橙色	513
63	土師器	皿	X	9.2	1.5	10YR8/3 浅黄橙色	517
64	土師器	皿	X	9.3	(1.4)	2.5Y8/3 淡黄色	507
65	土師器	皿	X	9.4	(1.4)	10YR8/2 灰白色	510
66	土師器	皿	X	9.4	(1.9)	10YR8/3 浅黄橙色、灯芯痕あり	516
67	土師器	皿	X	9.4	1.7	10YR8/2 灰白色、内面黒化 2.5Y6/1 黄灰色、灯芯痕あり	518
68	土師器	皿	X	9.5	1.6	10YR8/3 浅黄橙色	509
69	土師器	皿	X	9.5	(1.2)	2.5Y8/3 淡黄色、灯芯痕あり	515
70	土師器	皿	X	9.5	1.7	2.5Y8/3 淡黄色	519
71	土師器	皿	X	9.7	(1.4)	10YR8/3 浅黄橙色	511
72	土師器	皿	X	9.7	(2.1)	10YR8/3 浅黄橙色	521
73	土師器	皿	X	10.0	(1.7)	2.5Y8/2 灰白色、灯芯痕あり	512
74	土師器	皿	X	10.8	(1.9)	10YR8/2 灰白色、器表黒ずむ	023
75	土師器	皿	X	10.9	(1.7)	10YR8/2 灰白色、灯芯痕あり	522
76	土師器	皿	X	11.2	(1.9)	10YR8/2 灰白色、灯芯痕あり	523
77	土師器	皿	X	11.4	(2.4)	10YR8/3 浅黄橙色	524
78	土師器	皿	X	11.4	(1.9)	2.5Y8/3 淡黄色～2.5Y6/1 黄灰色、内外面炭素付着	530
79	土師器	皿	X	11.6	2.2	10YR8/2 灰白色～7.5YR7/1 灰白色、部分的に黒ずむ、灯芯痕あり	546
80	土師器	皿	X	12.1	(1.5)	10YR8/3 浅黄橙色	527
81	土師器	皿	X	12.2	1.9	10YR8/3 浅黄橙色、灯芯痕あり	547
82	土師器	皿	X	12.4	(1.7)	10YR8/3 浅黄橙色、灯芯痕あり	528
83	土師器	皿	X	12.4	(1.9)	10YR8/2 灰白色	545
84	土師器	皿	X	12.6	(1.6)	10YR8/3 浅黄橙色	532
85	土師器	皿	X	13.4	(1.6)	10YR8/3 浅黄橙色	534
86	土師器	皿	X	14.0	(1.8)	10YR8/3 浅黄橙色	533
87	土師器	塩壺蓋		6.8	(2.0)	10YR8/1～10YR8/2 灰白色、内面一部 7.5R7/1 明赤灰色	046
88	土師器	塩壺蓋		7.1	1.9	10YR8/3 浅黄橙色～5YR8/3 淡橙色	044
89	土師器	塩壺蓋		7.2	(2.1)	10YR8/1～10YR8/2 灰白色	047
90	土師器	塩壺蓋		7.4	1.8	10YR8/2 灰白色～一部 2.5YR7/4 淡赤橙色	045
91	土師器	塩壺蓋		7.6	(1.7)	2.5Y8/2 灰白色	048
92	土師器	塩壺		5.4	9.8	7.5YR7/4 にぶい橙色	049
93	土師器	塩壺		(5.7)	(9.2)	7.5YR8/2 灰白色～5YR7/4 にぶい橙色	052
94	土師器	塩壺		(6.0)	(9.3)	5YR7/4 にぶい橙色～10YR8/2 灰白色	050
95	土師器	羽釜		16.8	(4.2)	10YR8/1 灰白色～10YR7/2 にぶい黄橙色、外面炭素吸着	053
96	土師器	羽釜		23.2		10YR8/3 浅黄橙色、外面炭素付着	051
97	土師器	羽釜		24.0		10YR7/3 にぶい黄橙色	054
98	瓦器	香炉		15.7	6.1	胎土 10YR8/1 灰白色、器表 N5/0 灰色、外面に菊花をスタンプ	055
99	陶器	美濃瀬戸向付		13.4	(3.5)	胎土 2.5Y8/2 灰白色、釉 5Y7/3 浅黄色～5Y6/3 オリーブ黄色	560

No.	種類	器形	タイプ	口径	器高	色調、備考	実測番号
100	陶器	唐津椀		8.0	(3.0)	胎土 10YR7/3 にぶい橙色～7.5Y6/1 灰色、釉 7.5Y7/1 灰白色に発色	060
101	陶器	唐津椀		8.7	(2.9)	胎土 7.5YR7/3 にぶい橙色、釉 5Y5/3 灰オリーブ色に発色	059
102	陶器	唐津椀		10.6	6.0	胎土 5Y7/1 灰白色、露胎部 7.5YR6/4 にぶい橙色、釉 10Y7/2 灰白色～10Y6/2 オリーブ灰色	553
103	陶器	唐津椀		10.8	(4.7)	胎土 7.5YR7/3 にぶい橙色、釉 5Y6/2 灰オリーブ色～5Y8/1 灰白色	561
104	陶器	唐津椀		12.8	(6.2)	胎土 10YR7/3 にぶい黄橙色、釉 5Y5/3 灰オリーブ色	559
105	陶器	唐津椀		—	(3.7)	胎土 10YR8/4 浅黄橙色、釉 5Y7/2 灰白色～5Y6/2 灰オリーブ色	554
106	陶器	唐津椀		—	(2.2)	胎土 N6/0 灰色、釉 5Y6/2 灰オリーブ色	555
107	陶器	唐津皿		13.6	(1.7)	胎土 10YR8/2 灰白色、釉 5Y7/1 灰白色	563
108	陶器	絵唐津皿		12.9	4.2	胎土 10YR7/2 にぶい黄橙色、露胎部 7.5YR6/2 灰褐色、釉 10YR7/1 灰白色に発色、底面底部に鉄で文様を描く	056
109	陶器	絵唐津向付		15.4	5.7	胎土 N5/0 灰色～7.5YR7/3 にぶい橙色、釉 7.5YR6/1 灰色に発色、内面胎部上半に鉄で文様を施す。	057
110	焼締陶器	備前搦鉢		32.6	(12.3)	2.5YR6/6 橙色～N7/0 灰白色	548
111	焼締陶器	信楽搦鉢		27.4	(7.4)	2.5YR6/6 橙色～N4/0 灰色	551
112	輸入陶磁器	染付皿		27.0	(4.0)	胎土 10YR8/2 灰白色～5YR7/3 にぶい橙色、釉は 2.5GY8/1 灰白色～同 7/1 明オリーブ灰色、白泥を施し施釉する	058
113	輸入陶磁器	染付皿			(0.7)	胎土 N9/0 白色	062
114	輸入陶磁器	染付皿		—	(2.3)	胎土 10YR8/4 浅黄橙色～N8/0 灰白色、白泥を施し施釉する	556
115	輸入陶磁器	染付皿		—	(2.3)	胎土 10YR8/4 浅黄橙色～2.5YR6/4 にぶい橙色、白泥を施し施釉する	557
116	輸入陶磁器	染付椀		13.0	(4.0)	胎土 N9/0 白色	061
117	輸入陶磁器	染付椀		—	(1.9)	胎土 N9/0 白色	558

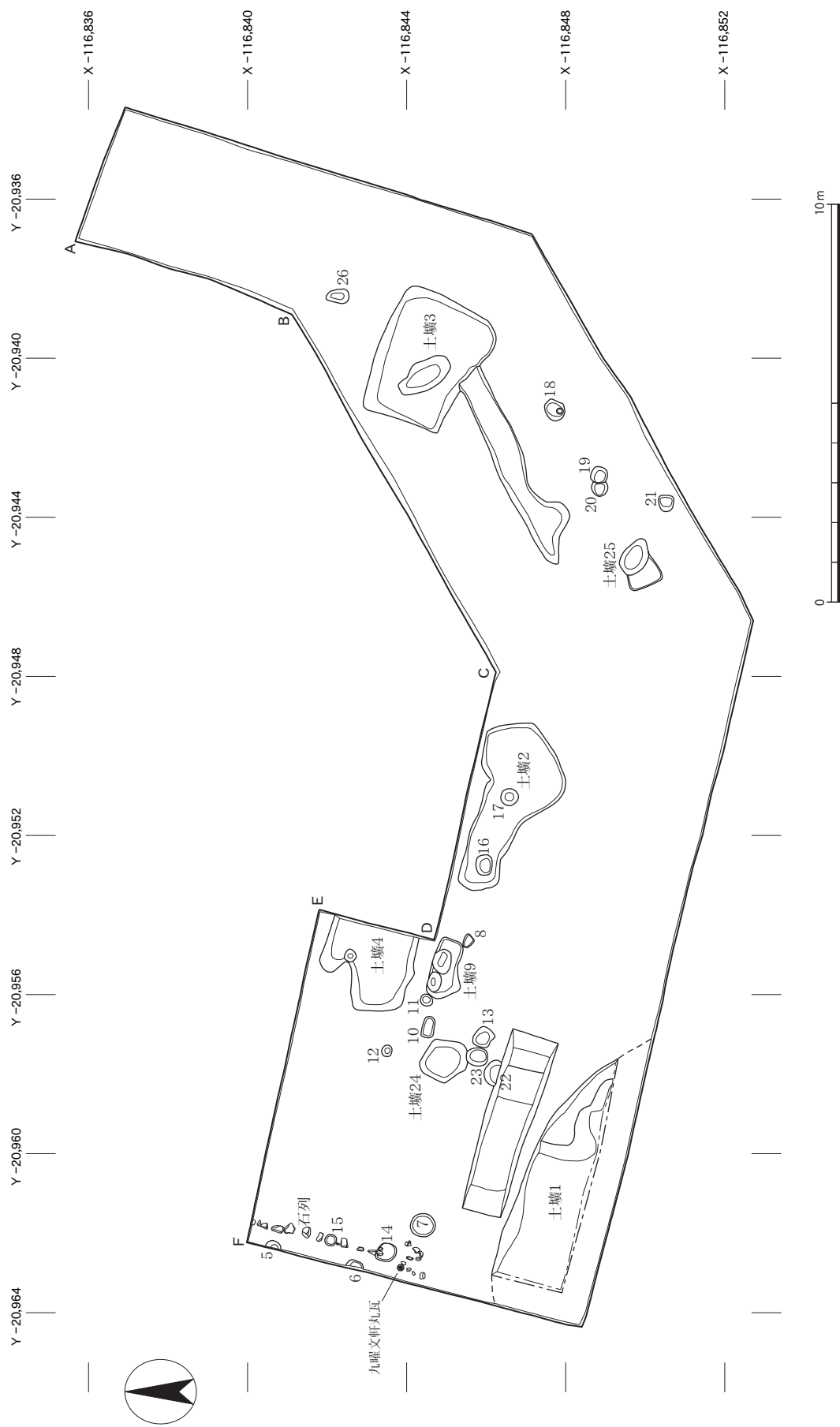
堀状遺構 27 (図 8)

No.	種類	器形	タイプ	口径	器高	色調、備考	実測番号
118	土師器	皿	S	12.8	(2.3)	10YR8/2 灰白色～同 5/1 褐色、灯芯痕あり	570
119	陶器	美濃瀬戸皿		11.6	(2.4)	胎土 2.5Y8/3 淡黄色、釉 5Y7/3 浅黄色～5Y8/1 灰白色、灰釉折縁皿	571

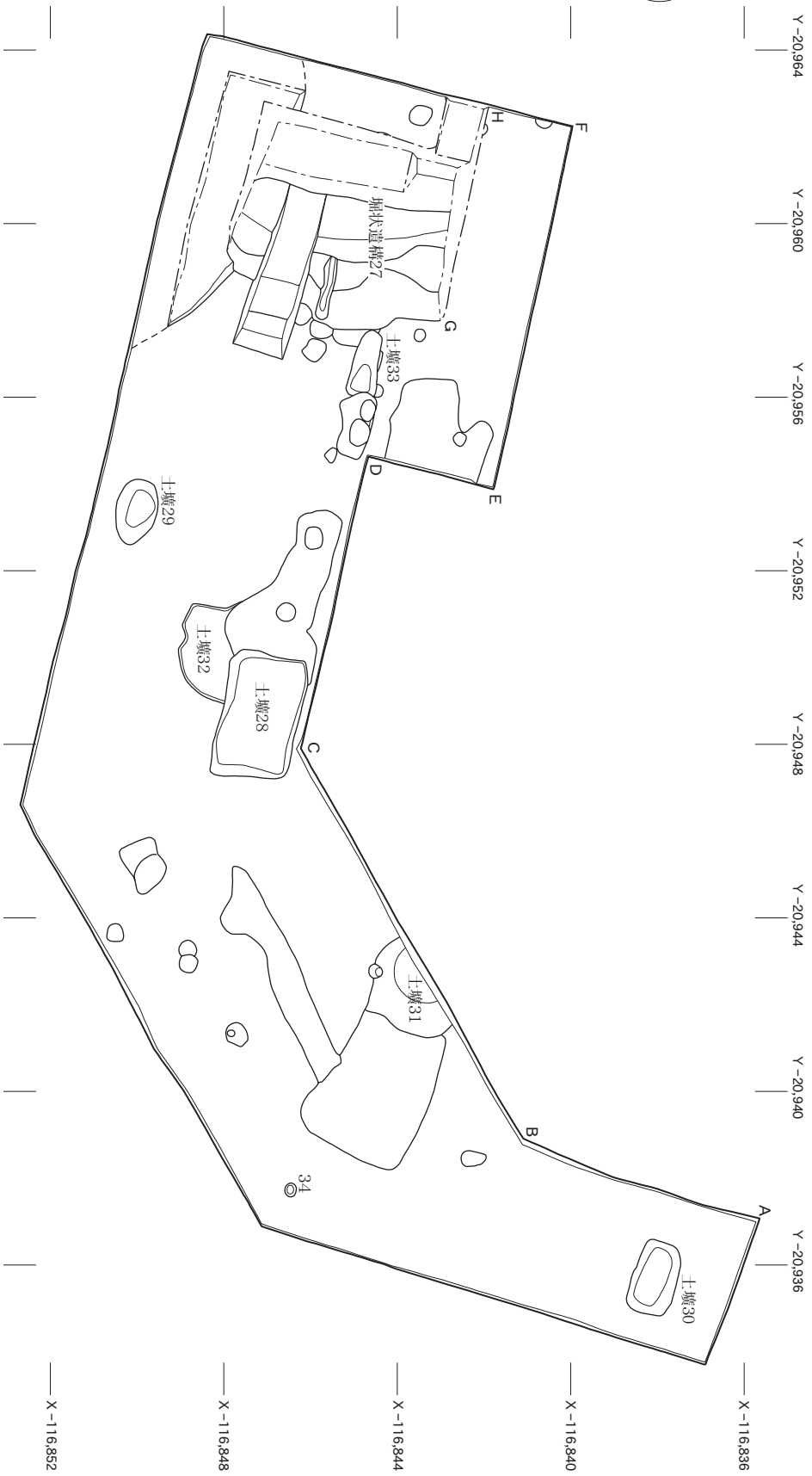
報告書抄録

ふりがな	ふしみじょうあとはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	伏見城跡発掘調査報告書							
副書名	京都市伏見区深草中ノ島町の調査							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	上村憲章							
編集期間	古代文化調査会							
所在地	〒 658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地 125-1404							
発行年月日	2008年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふしみじょうあ 伏見城跡	きょうとしふしみく 京都市伏見区 ふかくさなかのしまちょう 深草中ノ島町 じゅうななぼんち 17番地	26100		34度 56分 54秒	135度 46分 14秒	20061010 ～ 20061111	223 m ²	住宅建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
伏見城跡	平城跡	桃山時代～江戸時代	土壇、柱穴、堀状遺構、石列	土師器皿、国産施釉陶器、瓦類				

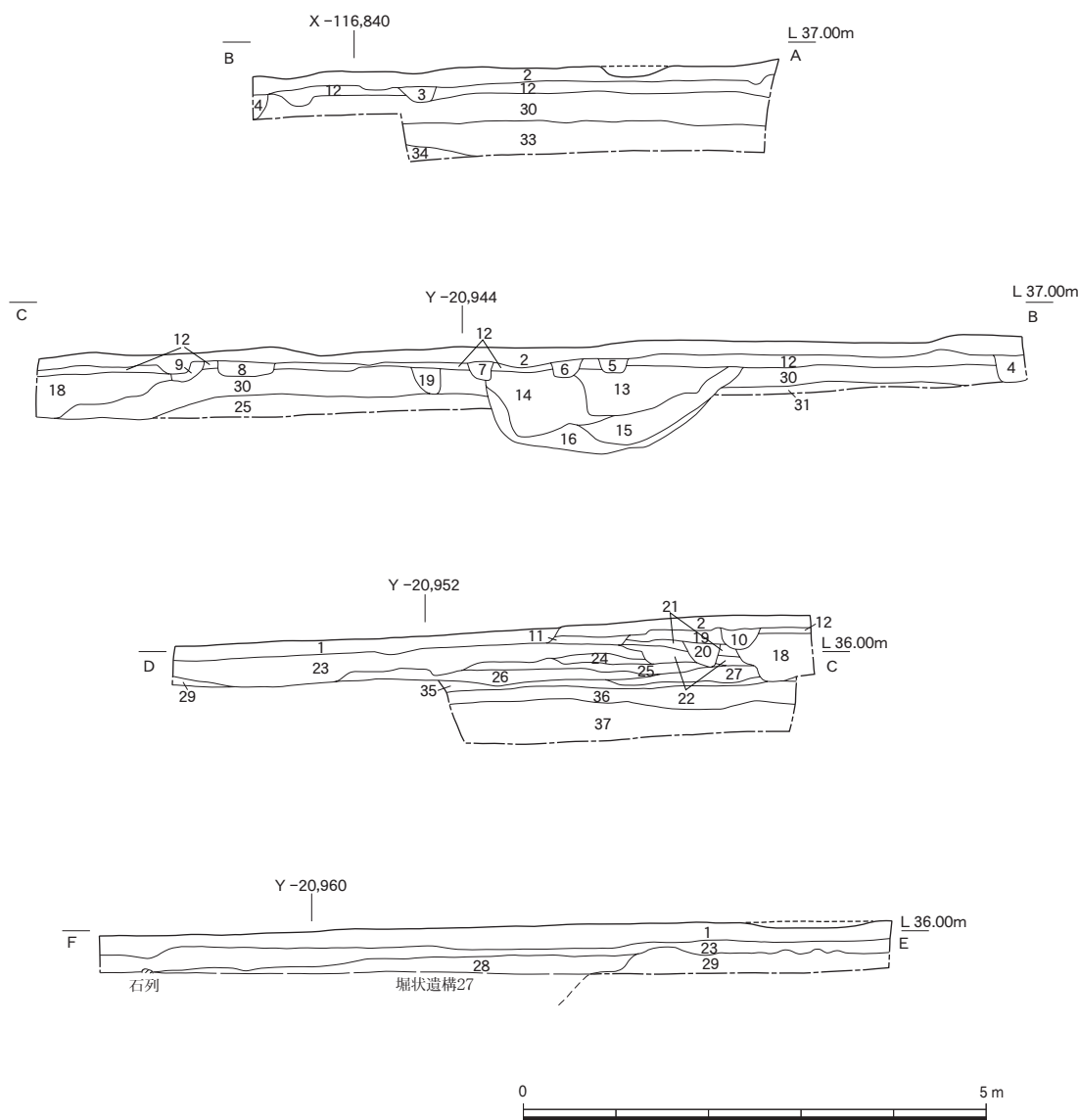
圖 版



第1面遺構表測図 (1/150)



第2面遺構実測図 (1/150)



- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 10YR3/2黒褐色砂泥、径0.5~2.0cm礫少量混 | 19 7.5YR3/4暗褐色砂泥、径0.5~3.0cm礫少量混 |
| 2 10YR2/2黒褐色砂泥、径0.5~4.5cm礫少量混 | 20 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~1.0cm礫、炭少量混 |
| 3 10YR4/2灰黄褐色砂泥、径0.5~2.0cm礫、炭少量混 | 21 7.5YR4/3褐色砂泥、径0.5~2.5cm礫少量混 |
| 4 7.5YR3/3暗褐色砂泥、径0.5~3.0cm礫少量混 | 22 7.5YR3/4暗褐色砂泥、径0.5~3.0cm礫少量混 |
| 5 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、径0.5~2.0cm礫少量混 | 23 7.5YR4/3褐色砂泥、径0.5~3.0cm礫、瓦片少量混 |
| 6 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥、径0.5~1.0cm礫少量混 | 24 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~4.0cm礫、炭少量混 |
| 7 10YR3/3暗褐色砂泥、径0.5~2.5cm礫少量混 | 25 7.5YR4/6褐色砂泥、径0.5~4.0cm礫、炭少量混 |
| 8 10YR3/3暗褐色砂泥、径0.5~1.5cm礫微量混 | 26 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~2.0cm礫少量混 |
| 9 7.5YR4/3褐色砂泥、径0.5~1.0cm礫少量混 | 27 7.5YR4/6褐色砂泥、径0.5~8.0cm礫、炭少量混 |
| 10 10YR3/3暗褐色砂泥、径0.5~2.0cm礫、炭、土師器片少量混 | 28 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~2.5cm礫、瓦片・炭少量混 |
| 11 10YR3/3暗褐色砂泥、径0.5~2.0cm礫、炭少量混 | 29 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~3.0cm礫少量混 |
| 12 7.5YR3/3暗褐色砂泥、径0.5~2.5cm礫少量混 | 30 7.5YR3/4暗褐色砂泥、径0.5~3.5cm礫微量混 |
| 13 7.5YR4/6褐色砂泥、径0.5~3.0cm礫少量混 | 31 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~3.0cm礫少量混 |
| 14 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~3.5cm礫微量混 | 32 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~3.0cm礫少量混 |
| 15 7.5YR3/4暗褐色砂泥、径0.5~2.0cm礫微量混 | 33 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~7.0cm礫多量に含む |
| 16 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~3.0cm礫少量混 | 34 7.5YR5/6明褐色砂泥、径0.5~1.5cm礫微量混 |
| 17 7.5YR3/4暗褐色砂泥、径0.5~3.0cm礫微量混 | 35 7.5YR4/6褐色砂泥、径0.5~2.0cm礫少量混 |
| 18 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~4.0cm礫、瓦片少量混 | 36 7.5YR5/8明褐色砂泥、径0.5~3.5cm礫多量に含む |
| | 37 7.5YR4/4褐色砂泥、径0.5~3.0cm礫混 |

断面実測図 (1/80)



1 調査前全景（南西から）



2 調査地近景（北東から）



1 第1面全景（北東から）



2 第2面全景（北東から）



1 第1面西部（東から）



2 第1面西部（北西から）



3 第1面石列（北から）



4 第1面九曜文軒丸瓦出土状況（西から）



5 第1面土壙03（南西から）



6 第2面堀状遺構27（東から）



7 第2面堀状遺構27（南から）



8 断面A-B断割り（南東から）



土壙 03 出土遺物

伏見城跡発掘調査報告書

—京都市伏見区深草中ノ島町の調査—

発行日 2007年3月31日

編集
発行 古代文化調査会

住所 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1-4-125-1404
TEL (078) 857-6368

印刷 (有) 京都編集工房
〒612-0868 京都市伏見区深草直違橋南1-524-24
TEL (075) 643-6978

